

# 各地における取り組みの紹介

## 災害時の支援の質の向上と 平常時の体制づくり・人材育成の観点から

※ 被災女性等への物資提供・相談などの直接的・個別的支援については、大変重要であるものの、普遍的に取り組まれるべきなので、ここではあえてはずしています。またここで紹介した以外にも、被災地内外の男女共同参画（女性）センターや支援団体が、相談支援、物資提供、居場所づくり、県外避難者支援など、多様な支援が行われてきました。



Training Center for  
Gender &  
Disaster Risk Reduction

報告 浅野幸子

減災と男女共同参画 研修推進センター

共同代表／プロジェクト・コーディネーター

早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員

大学非常勤講師

# ボランティアの安全確保と支援の質の向上

## 盛岡の事例

もりおか女性センターは、東日本大震災直後から、被災地に行く学生ボランティアが性暴力に遭わないよう気を付けるためのチラシを作成。

「被災地へいくボランティアの人へ」

県内の国公立大学の協力を得て学生ボランティアに配布したほか、避難所でも配布し注意喚起した。

主体 もりおか女性センター  
連携 県内の国公立大学



## 東京の事例

東日本大震災で東京都のボランティアバスによるボランティア派遣の調整を行った東京・ボランティア市民活動センター(東京都社協設置)が、女性支援団体が作成したジェンダー視点による支援の重要性に関するチラシを参加ボランティアに配布。

「一人ひとりを大切にできる  
ボランティア活動のために」

- \* 性別・多様性の視点による被災者のニーズの汲み上げ・支援
- \* 被災者と自分自身の安全の確保
- \* 男女両方のボランティアリーダーや安全担当者を置く(相談しやすい体制)

主体 東京ボランティア・市民活動センター  
資料作成 東日本大震災女性支援ネットワーク  
JCN ジェンダー・多様性チーム

# 多様な連携による支援の質の向上

## 青森の事例

青森県男女共同参画センターは、東日本大震災後すぐ、あおもりNPOサポートセンターによる支援団体関係者連絡会議に出席。幅広い情報を意識して支援活動に取り組んだ。

主体 あおもりNPOサポートセンターほか  
連携 青森県男女共同参画センター

## NGO・NPOによる事例

2011年夏、国際協力NGOの全国組織と女性支援団体が連携して仙台市内で、東北の支援関係者向けに、ジェンダー視点を重視した支援の必要性についての研修を実施した。

主催 JANIC東北事務所  
協力 東日本大震災女性支援ネットワーク

## 広域連携の事例

東日本大震災で立ち上がった広域連携組織である東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)に参加した複数の女性支援団体等でJCN「ジェンダー・多様性チーム」を立ち上げる。ウェブサイト上で、性別と多様な立場(障害者、ひとり親家庭、外国人、性的マイノリティなど)で、災害時に起こり得る困難や相談窓口情報等について情報発信。支援者の安全性確保を促すチラシも作成・公開した。

ずっと、つづく支援を。



東日本大震災支援  
全国ネットワーク

# 対象や状況を意識した支援活動

## 仙台の事例

仙台市男女共同参画推進センターは、女性たちのおかれた状況を深く意識した各種支援を、地元の女性団体や大学等とも連携しながら展開した。

- ・「女性の悩み災害時緊急ダイヤル」開設
- ・「被災者に寄り添い、前進を押し付けない」ことを大切に、被災女性支援のためのポータルサイトを開設
- ・各種講座等を、女性のエンパワメントにつながる内容に組み替える
- ・洗濯代行支援（「せんたくネット」）
- ・「MDGガールズプロジェクト」（10代女子のための震災ピアサポート事業） など

主体 仙台市男女共同参画推進センター

## 福島事例

原発避難者が多い時で2000人以上避難したビックパレットふくしま。プライバシーも無い過酷な状況下で女性専用スペースが設置され、福島県男女共生センターが、郡山市内の女性団体と連携してその運営支援を行った。



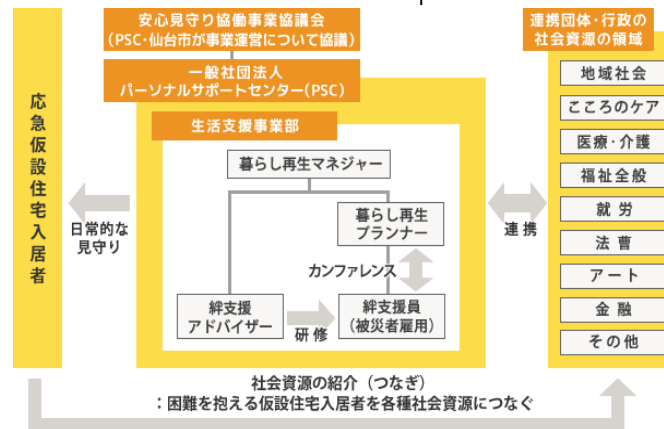
連携  
福島県男女共生センター  
郡山市内の女性団体

# 復旧・復興期の生活支援・人権問題の取り組み

## 仙台の事例

仙台市とからの委託でH23年から「安心見守り協働事業」を行っている一般社団法人パーソナルサポートセンターは、絆支援員として被災者を雇用し仮設住宅の相談支援をしているが、支援員は、震災と人権、DVと児童虐待のテーマを含む研修を10日程度受けている。

入居者との何気ない会話から、健康状態、介護や子育て精神状態等、多岐にわたる悩みや心配事の相談に乗っている。  
(内閣府男女局、防災復興取り組み指針の事例集より)



<http://www.personal-support.org/business/life.html> より

主体 一般社団法人 パーソナル・サポートセンター

## 福島事例

福島県社協主催のチーフ生活相談支援員向け研修の一部を県男女共生センターが共催。DV・虐待防止に関する研修を実施。相談窓口一覧等、社会資源情報も提供した。

主催 福島県社会福祉協議会  
福島県男女共生センター  
協力 減災と男女共同参画 研修推進センター





# 手引きの作成や新たな学習機会づくり

## 各地の例

東日本大震災後、各地の男女共同(女性)センターや女性団体が、性別や多様な人への配慮を組み込んだ手引き等を作成し、地域での学習活動に取り組む例が各地で見られる。また、老人会女性部向けに、護身術も含めた連続講座(横浜市男女共同参画センター)や、男女共同参画の視点での避難所開設訓練(青森県男女共同参画センター・右の写真)など、新しい学習機会を開拓している。



川崎市男女共同参画センター  
「男女共同参画の視点でつくる  
避難所運営ガイド」



とよなか男女共同参画推進センター  
「とよなか女性防災ノートPART II」



男性も炊き出し班に入る



老若男女車座で運営会議

# 地域組織と連携した研修

## 盛岡の事例

2014年度、もりおか女性センター(指定管理:NPO法人参画プランニング・いわて)は、平成26年度、内閣府地域防災における男女共同参画の推進事業により盛岡市町内連合会の協力も得る形で、「男女共同参画の視点を生かした運営マニュアル作成」講座を実施。講座を通じて「命とくらしを守る避難所運営ガイドライン」を作成したが、今後はこれを活用して、地域で学習の場を作っていく予定。

実施主体 内閣府  
NPO法人参画プランニング・いわて  
運営主体 盛岡市、もりおか市女性センター  
共催 盛岡市町内会連合会  
企画協力 減災と男女共同参画 研修推進センター

## 横浜の事例

横浜市男女共同参画センターは、横浜市S区と連携して、区内の自治会やPTA、学校関係者などでつくる避難所運営委員会を対象に、男女共同参画の視点を入れた避難所開設・運営に関する研修を実施した。

主催 横浜市S区  
横浜市男女共同参画センター



# 防災関係者と連携した講座・研修

## 福島の事例

福島県消防協会と福島県男女共生センターが共催で、女性消防団向け研修を実施。男性の消防団も多く参加し、今後の活動・組織の在り方も含めて幅広く考えた。



主催 (財)福島県消防協会  
福島県男女共生センター

## 三重の事例

三重県男女共同参画センターが主催の市民向け防災連続講座に、みえ防災市民会議のメンバーがオブザーバー参加。  
WSではサポートも。

主催 三重県男女共同参画センター  
関わり みえ防災市民会議

いわき市男女共同参画センターが実施してきた3.11トークカフェ。第6回目は、災害時要援護者支援をテーマに、男女共同参画の視点をいれた学びの場を設定。女性の防災組織(女性防火クラブ)に参加をよびかけたところ、地域に根差して活動する女性たちが多数参加。



主催  
いわき市男女共同参画センター、  
福島県男女共生センター  
声掛け  
女性防火クラブ、ロく被害者支援  
団体、民生児童委員協議会等



# 地域に根差した女性防災リーダーの育成

## 仙台の事例

男女平等の推進に取り組む市民団体のイコールネット仙台は、自主防災組織の中で活動できる女性防災リーダーの育成のための連続講座を開催。市内の各地区から、女性たちが参加している。

主催 イコールネット仙台



## 大阪の事例

大阪府のN市では、地域から推薦してもらった形で、女性リーダー養成講座を実施。もともとの活動基盤があるため、活躍が期待される。職員向け研修も実施。

### \* 自主防災組織の女性リーダー育成

市内の各自主防災組織より、女性を推薦してもらい「女性リーダー研修」を実施。避難所開設・運営図上訓練を含む、実践的な講座で力をつける形でエンパワメント。

### \* 職員向け研修

市職員（防災課以外も参加）向けに、性別・多様性配慮の視点に立った防災（特に避難所運営・在宅避難者支援の問題）について研修。

主催 N市の防災担当部局

# 専門家を対象とした研修

## 神奈川の事例

神奈川男女共同参画センター主催の、県内の女性相談員向けの研修において、災害と女性支援をテーマとした。性別の被災特性や、被災地のセンターの活動をまとめた報告書等をもとにした、被災地の男女共同参画センターの対応状況、内閣府男女局の相談事業の報告等をもとに、災害時の相談支援の実際について考えた。

主催 神奈川県女性センター  
講師派遣 東日本大震災女性支援ネットワーク

## 埼玉の事例

埼玉県民生・児童委員協議会のリーダー研修において、男女共同参画の視点にたった防災について学習。要援護者支援の観点および、地域防災組織に近い立場から、実践的な被災者支援に関するワークショップも組み込んで学習した。

主催 埼玉県民生・児童委員協議会  
協力 埼玉県男女共同参画センター



# 平時の連携を意識した講演会・セミナーの開催

## 千葉の事例

「災害にも強い地域社会をつくろう！  
～男女共同参画の視点からみた  
災害時要援護者への対応」  
と題した福祉セミナーを実施。

主催 千葉県社会福祉協議会  
千葉県男女共同参画センター  
後援 千葉県民生委員児童委員協議会  
NHK千葉放送局

### <構成>

講演Ⅰ 「災害時要援護者支援の視点」  
講師：佛教大学福祉教育開発センター専任講師 後藤至功さん

講演Ⅱ 「男女共同参画の視点から考える地域防災」  
講師：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員  
減災と男女共同参画研修推進センター共同代表 浅野幸子

### シンポジウム

岩手県社協、千葉市総務局防災対策課  
佐倉市中志津自治会長 が登壇

## 立川の事例

立川市災害ボランティアネット(東京都)によるつながりの中での、  
講演会開催自治連合会とも連携。

### 企画・運営

立川市災害ボランティアネット 女性部  
主催 立川市男女共同参画課  
協力 立川市社会福祉協議会  
立川市自治会連合会

### <テーマ>

「男性と女性、双方の力で地域防災力アップ  
～東日本大震災の教訓で変化を迫られる  
要援護者・子ども・女性支援のあり方」

※立川社協の働きかけのもと市民により  
設立された立災ボ。平時から、市内で  
研修等を実施。自治連とも連携。昨年、  
女性の視点の防災をテーマにメンバー  
と市民団体関係者対象に研修を実施。  
講演会は幅広い市民向けに企画。

# 災害ボランティア関連研修での工夫

## 杉並の事例

東京の杉並ボランティアセンター(杉並区社協)主催の災害ボランティアセンター運営スタッフ研修に、災害支援団体との連携、性別・多様性配慮の視点、地域コミュニティとの連携の要素を入れる。区内女性団体にも参加を声掛け。

主催 杉並ボランティアセンター(社協)  
協力 防災課、区内小学校、東京ボラセン、東京災害ボランティアネットワーク、南相馬市復興ボランティアセンター  
減災と男女共同参画 研修推進センター

※第3回では、性別・多様な立場(高齢者・障害者・乳幼児・子ども・妊産婦・外国人・性的マイノリティなど)の視点による被災者支援について学び、避難所内での住民のサポート、災害ボラセンでの支援のコーディネート両面から議論。区内の社会資源についても情報共有。

第1回	1 オリエンテーション(講座概要&自己紹介) 2 講義Ⅰ「杉並区の震災対策～被害想定に基づいた～」 3 講義Ⅱ「災害時要援護者支援」
第2回	○防災まち歩き体験 ・まちを「防災・減災」の視点で見て、「災害時のまち」をイメージする。 ・多くの仲間とまちを探検することで、コミュニティを感じる。
第3回	1 講義Ⅲ「多様な視点で災害活動に取り組む」 2 ワークショップ (東京都の総合防災訓練での実践を前提に学習)
第4回	○東京都総合防災訓練に参加 ～東京都、杉並区、城西ブロック社会福祉協議会及び関係諸団体と
第5回 (2日)	○福島県南相馬市災害復興ボランティアセンターで被災地支援活動の実践活動 仮設住宅及び被災現場の視察&講話 小高区内で被災者宅で瓦礫撤去、家屋の片づけ作業、草刈りなど
第6回	1 ワーク「災害ボランティアセンターの役割と機能」 2 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練に向けて
第7回	○災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練 ①相談受付 ②マッチング ③コーディネート
第8回	1 災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練ふりかえり 2 講座のまとめ 3 今後の予定について

# 平常時からのネットワーキング

## 静岡の事例

自主防災組織の組織率95%と活動が盛んな静岡県。しかし役員に占める女性割合は低く、研修テーマにも取り入れられにくい。そこで、行政の男女共同参画担当、防災担当、地域女性組織、男女共同参画センター、ボランティア組織、福祉団体、自治会連合会、大学が連携し「ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議」設立。

「男女共同参画の視点からの防災手引書」の作成、女性リーダーの育成などに取り組んでいる。

主体 ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議  
県内の多様な団体



## 東京の事例

減災と男女共同参画 研修推進センターは、東京ボランティア・市民活動センター(都社協)、都内の男女共同参画センターや社協の協力を得て、参加型の研究会を開催。要援護者支援という相互に議論しやすいテーマを切り口に、災害支援ボランティアと男女共同参画関係者が、互いの関心・強みや平常時の連携について話し合った。

主体 減災と男女共同参画 研修推進センター  
連携 社会福祉協議会、男女共同参画センター、ボランティア・NGO/NPO 13



# 行政の男女共同参画および防災部局の連携による総合的な取り組み

## 千葉の事例

千葉市では、男女共同参画課および危機管理課が連携し、環境整備、人材育成に取り組んでいる。



2014年度は、以下のような形で、男女共同参画の視点での防災体制づくりに取り組んだ。

- \* 「千葉市防災会議 男女共同参画の視点を取り入れる部会」の設置  
→2014年度中に報告書とりまとめ
- \* 千葉市男女共同参画センター  
防災講座&ワークショップの開催。  
「男女共同参画で地域の防災力を高めよう！」(2日間、写真)
- \* 千葉市役所の管理職職員向け研修
- \* 防災ライセンス講座  
主に自主防災リーダー向けの2日間の講座(一般市民も応募可)に、性別・多様性配慮に関する講義を一コマ組み込む。